

2023年度 小樽歯科衛生士専門学校
学校自己評価

1、学校の教育目標

<教育理念>人間性豊かな歯科衛生士として、地域の保健医療に貢献できる医療人を育成する
「愛と知と技を備えた」

2、評価項目の達成及び取り組み状況、今後の改善方を下記基準により点数評価する
適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1

(1) 建学の趣旨と教育の方針 評価値：3

- ・学校の建学の趣旨と教育の方針の学生、保護者等への周知について
文書、HP等を通じて周知を図っていく

(2) 学校運営 評価値：3

- ・教育理念に沿った学校経営方針について
教職員の更なる連携が必要で、より改善していく。
歯科医師会との情報の共有、連携をより強固にしていく
- ・就業規則、人事労務管理等の整備について
就業規則を作成し、運用している。
教職員の勤務状況等（勤務時間、出欠勤、休暇、出張）においては、
出勤簿、届書、願い等が適切に提出され、記録、保管されている。
- ・コンプライアンスについて
学生や保護者に対し、学校の発信物に記載する際の個人情報の保護
について許可の書類提出を求めている。（不同意も可）
改正民法に対応した誓約書・身元保証書を全学生が提出している。
- ・情報公開、情報システムについて
学校ホームページに公開中

(3) 教育活動 評価値：3

- ・教育課程の編成について
規程授業時間数を確保している。
授業担当教員、歯科衛生士教育に適した人材の確保に取り組む。
- ・教育指導方法について
教育内容充実の為、教員相互の情報、意見交換に取り組む。
グループ学習やアクティブラーニングの手法を取り入れる。
- ・教育課程の実施について
講義、校内実習、校外実習ともに感染症対策のため、一部内容の
変更があったが、原則対面授業を実施した。
コロナ渦で開始したオンライン授業は新たな運用を試みた。
実習先との連絡を密にし、実習先からの意見も取り入れる。
- ・成績評価について
出席状況を的確に把握、管理し、受験資格の有無確認を確実にやっている。
試験終了後の成績会議を、本試験後、再試験後、再々試験後に開催し、
公正に判定を行い、進級、卒業認定を行った。
校外実習は、実習指導者による評価を実施している。
学生に問題があれば、学校に連絡をいただき、連携して指導にあたった。
- ・教員の資質向上のための取り組みについて
Web専任教員研修会へ参加した。
今後も研修会への参加によるスキルアップを検討する。

(4) 学修成果 評価値：2

- ・国家試験について
11月から試験対策講義を開始し、1月より夜間、土曜日の補講を実施した。
試験への取り組みについて、更に指導を強化する必要がある。
100%合格を目指し、基幹教員と国試担当者と具体的な内容を話し合う
対面での機会を設ける。
- ・退学者について
入学前教育として、オリエンテーションを1回開催、課題を2回実施した。
随時個人面談、3者面談を行った。

1年生4名が退学した。
学生の健康管理、モチベーションを高めていく必要がある。
進級時の習熟度を厳正に判断していくことが必要である。

- ・就職について
卒業生、国家試験合格者22名が就職した。
求人情報の開示時期や医院見学、面接開始時期を検討する。
- ・卒後の学生のフォローアップについて
小樽市歯科医師会、本校同窓会と連携し、卒業後の動向等の情報を共有化し、リカバリー事業などへの参加につなげる。

(5) 学生支援

評価値：3

- ・進路、就職について
就職希望調査を行い、担任教員が個人面談で詳細を聞き取り、希望に合わせた指導をしている。
- ・学生相談について
担任教員との個人面談や、教務職員を含めた面談を行っている。
- ・経済的支援について
小樽市歯科医師会奨励金、一人暮らし支援制度、遠距離通学支援制度
社会人支援制度それぞれの支援を行っている。
- ・健康管理について
健康診断の実施、B型肝炎の抗原抗体検査、ワクチン接種を行っている。
感染症対策を徹底するように指導している。
- ・保護者との連携について
定期的に、出欠状況や近況を記した文書を発信している。
学校生活全体の様子や取組みを載せた文書の発行を検討する。
- ・卒業生への支援について
歯科医師会主催のリカバリー事業への参加を、同窓会とも連携し
より充実させていく。
求職の問い合わせがあれば、相談や再就職を支援している。

(6) 教育環境

評価値：3.5

- ・施設、設備の整備について
古くなった設備の修理を行った。
ZOOMを導入し、一部オンライン授業を行った。
- ・実習施設との連携について
実習場との、より一層の連携が必要である。
- ・防災体制について
避難訓練を実施している。

(7) 学生募集

評価値：3

- ・学生募集活動について
高校訪問、進学相談会への参加、オープンキャンパスの開催など、やや回復傾向にあるが、新入学生は17名と少なかった。
来年度も厳しい状況は変わらないと思われるが、再開できるもの、新しい時代にそったものを考え、努力を続ける。
- ・広報活動について
潮まつりに参加した。今後も開催が再開されるものが増えると思われる。
SNSによる学校生活等の情報発信を広げる努力をしていく。
- ・学生納付金について
口座振替納入を導入している。

(8) 財務

評価値：3

- ・中期的な財政基盤について
新入生の数が3年続けて減少したため、収入が減少することが予想される。
次年度以降の学生増が絶対的に必要となる。
- ・予算、収支計画について
現状に即した計画を立てている。
来年度から学費の増額を決定した。
- ・会計監査について
年2回、適正に行われている。
- ・財務情報の公開について
ホームページにて公開している。